



鈴木ゼミ

2013 年合宿



2013年

9月23~26



2013 年夏季ゼミ合宿旅行 行程表 Ver.3(最終版)

2013/09/27

- 期間 2013 年 9 月 23 日 (月) ～9 月 26 日 (木)
- 場所 韓国・ソウル
- 目的 海外メディア社の現状と問題点を探る。日本社会との文化比較
- 参加者 男=8 名 (引率 1 名)、女=10 名 (4 年生=1 名、3 年生=4 名、2 年生 12 名)
- ツアーオペレーター HIS 丸の内営業所 (横田)

宿泊ホテル HOTEL SKYPARK MYEONGDONG 2 (ホテルスカイパーク明洞 2) 10-7,MYEONG-DONG 1GA, JUNG-GU,SEOUL TEL:02-755-0091

1 日目 9 月 23 日 (月) NH1163 羽田 11:30～金浦 13:55

- ・羽田空港国際線ターミナル出発ロビー 9:30 集合
- ・13:55 到着後、送迎バスにて ホテルへ 16:30 チェックイン
- ・18:00 夕食

2 日目 9 月 24 日 (火)

- ・～8:30 朝食後 自由行動
- ・13:00 ホテルロビー集合 地下鉄/バス利用デジタルメディアシティへ
<http://www.sba.seoul.kr/japan/jsp/business/dmc.jsp>
- ・14:00 韓国映画博物館見学 <http://www.seoulnavi.com/miru/1718/> [白先任研究員]
- ・15:00～16:30 CJ MEDIA (映画製作・配給、ケーブルの MSO、公演企画などを行う大手会社) 訪問 会社概要の説明、スタジオ見学
- ・16:30～18:00 移動 ホテル帰着
- ・19:00～20:30 夕食 ミーティング

3 日目 9 月 25 日 (水)

- ・～8:30 朝食 9:20 ホテルロビー集合
- ・9:30 発 徒歩⇒朝鮮日報社 (Koreana Hotel) 9:50
- ・10:00～11:30 ⇒朝鮮日報社・TV 朝鮮訪問 レクチャー後、社内見学(10:40 生ニューススタジオ入り)/記念写真 ※朴ジョンフン編集局長と懇談
引率=李鍊・鮮文大学校教授/金京煥尚志大学教授 (本学卒業生)
- ・11:30～12:30 地下鉄 SBS へ
- ・12:30～13:30 昼食 (SBS 本社社員食堂)
- ・14:00～14:00 SBS 社内見学 (FM ラジオ部門、ニューススタジオ、コントロール室、アーカイブなど)
- ・14:30～15:30 地下鉄で移動
- ・16:00 ホテル帰着、自由行動

4 日目 9 月 26 日 (木)

- ・～8:30 朝食
- ・8:30 ～9:30 ミーティング (ホテル・ミーティングルーム)
チェックアウト後 フリータイム
戦争博物館 東亜日報新聞博物館ほか <http://www.seoulnavi.com/miru/19/>

- ・ 13:00 ホテルロビー集合
- ・ 13:10 送迎バスにて空港へ
- ・ NH1164 金浦 16:15～羽田 18:30 入国手続き
- ・ 19:10 解散

2013 ソウルゼミ合宿参加学生一覧

no.1	A1019985*	篠原 早紀	SHINOHAR Saki
no.2	A1119081*	称原 那美	SHOHAR Nami
no.3	A1119712	山崎 友裕	YAMASAKI Tomohiro
no.4	A1119856*	菅野 ゆい菜	SUGANO Yuina
no.5	A1119948*	増家 葉月	SOGA Natsuki
no.6	A1219098*	駒木 奈美	KOMAKI Nami
no.7	A1219140	川村 大和	KAWAMURA Yamato
no.8	A1219177*	四家 千晴	SHIKE Chiharu
no.9	A1219315	田中 雅久	TANAKA Masahisa
no.10	A1219325	渡邊 拓海	WATANABE Takumi
no.11	A1219419*	FANG LU	
no.12	A1219458*	CHEN YI YUN	
no.13	A1219463	手島 崇之	TEJIMA Takayuki
no.14	A1219596	細野 裕希	HOSONO Yuki
no.15	A1219691*	姫野 杏奈	HIMENO Anna
no.16	A1219756	佐藤 諒	SATO Ryo
no.17	A1219899*	佐藤 優紀子	SATO Yukiko

※引率 鈴木雄雅(SUZUKI Yuga) No.5 増家は 24 日 (火) 夜から参加
 現地ヘルパー PARK JIYOUNG (卒業生)/尾上彩子 (西江大学交換留学中)

【アサイメント】フリータイムを利用し、以下を訪れて、ミーティング時に報告しなさい。

景福宮、国立民族博物館、徳寿宮、昌徳宮、東大門、国立中央博物館、ソウル歴史博物館、戦争記念館、安重根義士記念館、ソウル市立美術館、LEEUM 三星美術館、明洞聖堂、N ソウルタワー、63 ビルディング、南大門市場、東大門総合市場、江南・アックジョンドン、CO-EX、梨泰院、ソウル駅、仁寺洞、北村

【経 費】

■学 生 (航空費・ホテル宿泊代 3 泊/ツイン) **39,320 円** (韓国出入国税等・羽田空港施設使用料 4,520 円を含む) + 海外旅行保険 + 現地交通費約 1,500 円

■教 員 (航空費・ホテル宿泊代 3 泊/シングル) **53,320 円** (同上)

2013 年 鈴木雄雅ゼミ合宿@ソウル レポート

A1019985

篠原 早紀

9 月 24 日（火）徳寿宮・映画博物館・CJ E&M センター

午前中のフリータイムでは徳寿宮（トクスグン）に行ってきた。韓国の五大王宮でここだけ見に行ったことがなかったため、この機会を利用して見学した。徳寿宮は、朝鮮時代中期の豊臣秀吉の文禄・慶長の役（1592～1598 年）でソウルの宮殿のほとんどが破壊された際に、臨時の王宮として使われた場所だ。韓国の伝統建築とヨーロッパの建築様式が混在し、イギリス人技師が手がけた庭園やロシア人設計の建築物などが見られる。また、韓国ではオンドル（床暖房）で暖をとるため平屋造りが一般的だが、徳寿宮内の昔御堂（ソゴダン）は二階建てであるなど、特徴的で珍しい王宮だ。

守門交代儀式の再現も行われており、11 時からの回を見学した。儀式は韓国語、英語、中国語、日本語での解説放送付きで行われ、ソウル市の観光事業への力のいれようを感じた。徳寿宮内の見学の後、徳寿宮の脇にある石垣道（トルダムキル）も見てみたかったので足を伸ばした。ここは約 800m 伸びる石の壁が美しく、ドラマの撮影に使われたり歌の歌詞に登場したりする。カップルで歩くと別れるというジンクスがあることで有名なのだが、ガイドさんにその理由を尋ねると、昔は道の終わりに家庭裁判所があったことからジンクスとして広まったとのことで、なんとも韓国人らしいジョークだと思った。市庁駅から徒歩すぐ、観覧料 1000 ウォン。



中和殿(正殿)



トルダムキル

午後のデジタルメディアシティにある映画博物館と CJ E&M センターの見学では、普段親しんで見ている韓国映画やケーブル番組の中に入ったような感覚になった。映画博物館にはハングル表記しかなかったため後輩たちに翻訳解説をしながら見学を進めて、少しは案内役として役に立てたかと思う。CJ E&M センターには留学時代に番組観覧に来たことがあったが、リハーサル中のスタジオやミキサー室など一般では絶対に入れてもらえないところまで見せてもらうことができた。

CJ の「韓国エンターテインメントを世界中へ広めていく」という意気込みとその力強さを、会社紹介の映像や社員の皆さんのおもてなしから感じた。デジタルメディアシティー帯も、メディア関連の施設を集中させてここ数年で急速に開発発展が進んでいるのを見ても、韓国メディアの勢いがうかがえた。

9月25日（水）朝鮮日報・TV 朝鮮・SBS 本社

朝鮮日報では社員の方が頑張って日本語で説明案内をしてくださった。編集会議の机に座らせてもらったり、TV 朝鮮の生放送のスタジオに入れてもらったり、ここでも十分すぎるほどのおもてなしを受けた。もらったパンフレットが日本語バージョンだったことにも驚いた。朝鮮日報は韓国1位の新聞であり私自身も韓国紙のなかで初めに手に取るのは朝鮮日報だが、TV 朝鮮に関してはまだ新しいチャンネルで国内での視聴率でもまだまだといったところが現状だ。新聞社が持つチャンネルとしての特性、独自性を活かしていくことがTV 朝鮮の今後を決めると思う。今後の動きに注目したいと思った。

韓国三大地上波のひとつ SBS ではラジオの収録スタジオやライブラリーを見学した。ここでも日本のテレビ局ではなかなか入れてもらえないようなところまで見学させてもらえた。社食が食べられたのは本当に嬉しかった。最近の SBS はバラエティー番組に力を入れており、個人的にはそれらの番組が国内外で人気を得ていることが局全体の勢いにつながっていると思う。ラジオではゴリラというアプリを通して SNS 的なコミュニケーションを行いながらの生放送、公開スタジオやスタジオ内にカメラを設置する「見えるラジオ」など視聴者との距離が近い仕組みが多いところが魅力だと感じた。



朝鮮日報社



8時のニュース(SBS)

全体のまとめ

今回は通訳案内役として4年生ひとりでの参加だった。この合宿での個人的な目標は、全行程を無事にこなせるようにサポートすること、後輩たちに韓国について多くを知ってもらい、実際に見て体験することを手伝うことだった。スケジュールに関してはジョン先輩なしでは到底こなすことはできなかったと思う。また、多くの貴重な体験ができるスケジュールを組んでくださった鈴木先生にも感謝したい。後輩たちは疑問に思ったことはなんでもすぐに質問してくれて、その熱心な姿に刺激を受けた。今回の合宿で韓国のイメージが変わったと言っている後輩も何人かいて、知っているようで知らないことの多い隣の国を少しでも身近に感じてくれたようで嬉しかった。

普段から韓国のメディアに触れることの多い私だが、今回の合宿で制作の裏側を見たことでこれからはただ単に楽しむだけでなく、もっと多角的な目線で視聴していきたいと思った。来春から仕事を始めるモチベーションにもつながったと思う。

2013 年ソウルゼミ合宿を終えて

A1119712

山崎 友裕



9 月 23 日 韓国・金浦空港にて

9 月 23 日から 4 日間、鈴木ゼミの韓国合宿に参加した。海外メディア社の現状と問題点を探ること、そして日本社会との文化比較がその目的だ。振り返ってみると、その両面において大変有意義な経験ができたと思う。

1 日目はまず羽田空港から金浦空港へ。個人的には世界屈指のハブ空港との呼び声高い仁川空港ではなかったのが残念だった。到着後に向かった免税店で驚いたことは、店員の多くが流暢な日本語を話していたことである。いかに日本人がターゲットであるかが一目でわかった気がした。晩ごはんはゼミの卒業生が紹介してくれたビビンバ。地獄のような辛さだった。辛い物が苦手な 3 年生の席においてあった水がすぐになくなってしまった。

2 日目の午前は、予定変更にともない各自での研修に。3 年生はまず日本大使館へとむかった。大使館の正面は「POLICE」と書かれたバスで封鎖されており、多数の警備員によって厳戒態勢がしかれていた。想像以上の警備の厳重さが、現在の日韓関係を象徴しているようだ。その後足を運んだ景福宮は残念ながら定休日である中に入ることはできなかった。しかし敷地内からなにかマイクを使った大きな声が聞こえていたため、スロープの手すりによじ登り堀の中を見てみると、多くの人が集まっていた。デモ隊の集まりなのだろうか。

午後は CJ MEDIA の見学へ。私は知らなかったが、韓国では有名なケーブルテレビの会社だという。私はここで韓国企業の勢いというものを感じたような気がした。「～ASIA NO.1 TOTAL CONTENTS COMPANY～」という会社のモットーからもわかるように、

なんとしてもアジアでトップをとるんだ！という強い意気込みのようなものが伝わってきた。現在の日本企業でここまでの強い意志をもっている会社がはたしてどれほどあるだろうか。また、TOTAL CONTENTS というように、もはや放送という枠を超えて映画やゲームなど、事業を多角化させていることも日本ではほとんど見られないことの1つだろう。「～NO CULTURE, NO LIFE～私たち CJ MEDIA は文化を形成しています」担当者によるこの発言が強く印象に残っている。



3日目はまず朝鮮日報を訪問した。朝鮮日報も日本の聞社同様、発行部数の減少という大きな問題に直面しており、今では電子版により力を注ぐようになっているという。最大で 300 万部を超していた発行部数も、今では 180 万部。日米韓をはじめとする先進国で発行部数の減少を再認識することとなった。

午後に訪ねた SBS ではスタジオ等に案内していただいたが、最も印象に残っているのは食堂にあったゆず茶だった。ゆず茶というものは初めて飲んだが、とても風味が強く、お土産として持ち帰ったのは言うまでもない。

夜はカラオケに行った。想像以上に日本の曲が多く搭載されており、この合宿で1番の盛り上がりを見せた。その後は人生初のエステに挑戦。こちらは真っ裸で、施してくれる中年男性はなぜか下着1枚。男性の手がしばしば私の急所を触れるなど、まさに「挑戦」という言葉がぴったりだったように思う。マッサージ用の吸盤で吸われた際に背中にできた痣は1週間経った今でも消える様子がない。

最終日となった4日目はお土産を買い、空港へ。搭乗直前に搭乗券を紛失するというアクシデントもあったが、ゼミ生が拾ってくれており事なきを得た。

韓国では日本語が通じることもあり、あまり外国という感じがしなかった。韓国女性はみな整形をして美人だと考えていたが、実際にはまったくそうではないんだということを知れたことが個人的にはこの合宿で1番の収穫だったかもしれない。

ドタバタ韓国珍道中

A1119948

増家 菜月

2013 年度雄雅ゼミの夏合宿は日本のお隣、大韓民国にて行われた。他のゼミ生には「ゼミで外国!?(笑)」と言われ続け、個人的にも「なぜ私はゼミで韓国にまで行く必要があるのだろう」と資金繰りにも苦労したが、振り返れば予想以上に貴重で濃密なゼミ合宿であった。

9 月 24 日 13 時 10 分金浦空港に到着し、私のゼミ合宿は始まった。都合のため 1 日遅れ、人生で初めて 1 人で異国に乗り込むこととなったものの、意外にあっさり現地入りを果たした。まだお昼すぎ、そんなに遅れもとっていない。後は合流するだけ、そしたら何も怖くない。団体行動が最も苦手、小娘は「ツアー」を忘れていた。

ロッテホテル、プラザホテルを宿泊先とする女性 2 人組の中で「スカイパーク 2、1 メイサマ、ソガサマ」は H.I.S. 金さん率いるツアーでまさに紅一点だった。単身のためか子どもだからか、バスの中でも東亜免税店でもどこにいてもガイドや皆さんから興味に満ちた視線を送られ思わず苦笑が漏れる。一つ目のホテルを過ぎ、車中ついにガイド金さんが私に向かって口を開く。「韓国へは、彼氏に会いに?」「はあ?」素っ頓狂な声が出た。本来の訪韓理由を説明し、金さんが車内にしみじみと言った。「1 人で韓国に来る人は、勉強というのが 3 割、7 割は恋愛です」「ソガサマは絶対彼氏だと思ったんですケドね～」と私以外の笑いを誘っていた。チェックインについても、部屋を押さえている人が私でなく「スズキユウガソガナツキ」という誰それ? な名前であったため多少ごたついたが、無事チェックイン。エールを貰って金さんと別れる。ゼミ生たちがホテルになかなか戻ってこず「おかしいな、18 時って言ったのになあ」と旦那を待つ新妻のような寂しさを覚える自分に驚いた。9 月 24 日 18 時半、ホテルでゼミ生と合流して漸く私のゼミ合宿が始まった。初日の活動は OG の方々とのサムギョプサルを頬張り、就活や恋愛について四年生に伺うのみだった。

翌 25 日、メディア社訪問。朝鮮日報社、SBS を見学させていただく。どちらも昨年受講した外国ジャーナリズムの授業で聞いたことのある韓国の有名なメディア社であったため訪韓前から楽しみにしていた見学であった。朝鮮日報社ではスーツ姿の重役そうな男性方が私たちの来訪のために日本語のパワーポイントを用意、テレビ番組制作の現場、新聞紙面作りのデスクフロア、輪転機などを見せて回って下さった。帰り際には手みやげ、日本語資料まで持たせて下さり、記念撮影にも笑顔で応じ、明るく見送ってくれ、あまりの待遇の良さに驚いた。上智でのメディア研究で雄雅先生にお世話になったから、と仰っていたので、自分のゼミの先生を改めて尊敬した。日本のものに引けをとらない、「おもてなし」ぶりであったように思う。続いて訪問した SBS ではラジオ番組の収録ブース、テレビ番組のスタジオ、過去に放送した番組の紹介ブースなどを見せていただく。建物が大きくオープンで、内部もエンタテイメント性が強い造りであったため「会社」「仕事場」というよりは大きなショッピングモールのような印象を覚えた。朝鮮日報社は、どちらかといえばこじんまりとした普通の「会社」、少し古いビルであったので堅實的に効率よく仕事をするな

ら朝鮮日報、楽しく仕事をするなら SBS といった社風なのかなと（勝手ながら）推測した。

朝鮮日報社のテレビスタジオは広々閑散としていて、番組放送時も必要最低限の人数しかいなかったのに、SBS のスタジオは凝った造りをしてライトやカメラ機材の数も多くあったのでやはり対極であるように感じた。それぞれで制作されるテレビ番組、ラジオ番組にもそのカラーがどのように反映されているのか視聴し比べてみると、感じ方がまた変わって面白いかもしれないので機会があればやってみたい。

見学は朝鮮日報社、SBS どちらにしても現地職員の方に引率、ゼミ OG の方に通訳をしてもらい、大人数でぐると社内を長時間歩き回って見学させて頂いたが、常に「へえ」「ほお」「うわあ」「すごい！」の感想ばかりだった。具体的な目標もなく、見たまま聞いたままをそのまま受け取り感心しただけになってしまったことが反省である。文献に目は通していたものの具体的に「何を見よう」「これを聞こう」「あれを確かめよう」といったことを前もって決めてくれば、実際の見学でより知見を深める事が出来たように思うので今後もしフィールドワークをする機会があれば予備知識だけでなく目的を持って、実際に足を運んでみるようにすることにする。

私自身、訪韓は三度目で「また韓国に、しかもゼミで行くのか...!!」と明洞や有名観光地はあまり足を運ばなかったものの、普通では見る事のできない現地メディア社が見学出来たのはこのゼミだからこそ出来た貴重な経験であった。歳の近い人たちと団体で遠方に行って数日間を過ごし夜に外で遊ぶ、部屋でだらだら時間を気にせず話す、トランプで遊ぶ、といったような関わり合い、そういった経験がほぼ無かったので時折団体行動で大変なのだなあと感じることもあったが、それも踏まえて本当に新鮮で楽しい夏の思い出となったゼミ合宿であった鈴木先生はじめ、OBOG はじめゼミ生のみなさま、この合宿でお世話になった皆さんに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



韓国メディアとソウル文化に触れて

A1119856

菅野 ゆい菜

今回の韓国合宿は、私にとって初めてのゼミ合宿であり、また7年ぶりの海外渡航だった。そのため、不安もたくさんあった。まずは、方向音痴な私が空港で迷わないかということだったがそれ以前に、自宅から羽田空港が近いということを理由に油断をし、遅刻。さらに慣れない出国手続きに戸惑いドタバタの出発となった。しかし、そうした不安以上に楽しみと期待の気持ちの方が大きく、わくわくしていたことは言うまでもない。

無事韓国に到着した際、一番初めに思ったことは、その町並みが日本とあまり変わらないということだった。久しぶりの海外のはずだったが、「外国に来た！」という実感はあまり湧かなかった。日本人観光客が多いこと、さらに、韓国の人々が英語ではなく日本語で会話をしてくることもまた、異世界感を薄めた原因かもしれない。とはいえやはり外国、日本との相違を感じる場面もいくつかあった。車の右側通行や横断歩道が二列に分かれていることへの違和感。また夜中にコンビニへ行ったとき、お客さんがいるにも関わらず搬入物の包装を店内の床に盛大に散らかして作業していたことへの驚き。日本ではきっと見ることのない光景だろう。

合宿のメインであるメディア社訪問見学は、CJ E&M CENTER・朝鮮日報・SBSの三つを巡った。

各社を見学して感じたことは、三社とも志がとても高いということである。CJメディアは、「文化をつくる会社だ」と唱っていたことが印象的であった。写真、ゲーム、映画、など様々な分野で活躍していることがわかり、“Asia No1, Total Contents Company”を最終目標としているという部分に感心した。朝鮮日報では、ニュースの生中継の様子や新聞の印刷機械などを見学したが、こちらの会社でも一つの分野にとどまらず、総合メディア企業を目指しているということを知った。また、案内をくださった社員の方々がとても親切で、日本の「お・も・て・な・し、おもてなし」を表現してくださったときには心が温かくなった。

最後に回ったSBSは、建物の外装をはじめ、吹き抜けの構造、ガラス張りのエレベータ



一などから感じられる近代的な印象に驚かされた。TV スタジオやラジオ放送局もきちんと整備され、最先端の技術を駆使してより良い放送に尽力している様子が見えてきた。韓国はなんとなく、日本と比べて遅れているようなイメージを抱いていたが、そうではないことに気づかされた。

さらに 2 日目の自由行動の際には、現地のデモの様子を見ることができた。普通の街中の建物の壁に掲げられた「Dokdo island in the East Sea of Korea」という垂れ幕を見たときは、ほんの少し怖さも感じたが、それと同時に、韓国の人々は領土問題について実際に

どのように考えているのだろう、ということを知りたいとも思った。

今回はメディア社見学以外にも、様々な面で韓国を堪能することができた。韓国は美容の国といわれているように、コスメ用品がとても充実している。街中を歩いていると、「はいよ！中見てっね！」と声をかけられ手渡されるのが、顔用パックだ。日本でいうティッシュ配りと同じような感覚だったが、このパック配りだけで入手したものは 10 枚以上。お得感を味わえた。また 3 日目にはエステにも行き、サウナやあかすり、チマチョゴリの着付けを体験した。綺麗になったかどうかは別として…初めてのエステはとてもいい思い出となった。



また韓国といえば、キムチをはじめとする食文化が特徴だ。しかし、残念ながら私は辛いものが苦手なため、そうした食文化を楽しむことはできなかった。1 日目の夕食で出た石焼ビビンバで既にアウト。2 日目のお昼には、「どんぶり」という丼物専門のお店でかつ丼を食べてしまうほどであった。韓国の食事は刺激が強すぎて、そこで生活を送ることはできなさそうだ、と身をもって実感した。

しかし、総括して振り返ってみても、今回の合宿はとても充実したものになったと思う。普段ではできないような貴重な経験を通じて、海外のメディアに対する興味がより増した。韓国メディアを見たことで、また新たな視点から日本のメディアを考察することにもつながるのではないだろうか。さらに、この 4 日間でゼミ生同士の仲も深まり（と、私は思っている…）、今後のゼミ活動に向けて改めて頑張ろうという気持ちが高まった。このような素晴らしい機会に参加できたこと、そしてこの合宿で関わったすべての方々に感謝したい。

韓国社会・メディアから学んだこと

A1219098

駒木 奈美

今回の韓国ゼミ合宿で最も印象的だったのは、CJ を訪問した時のことだ。韓国についてから、最初に訪問したメディア機関だったからかもしれない。「CJ は文化をつくる」、代表の人が誇り高く説明してくれたことに感銘を受けた。文化がなければ国はない—それは韓国メディアの高い志なのかもしれない。そしてまた韓国は日本のメディアを踏襲してここまで発展してきたが、日本よりもずっとメディアを国際的な視点でみているところに感心した。世界の人々が毎年 2 回は韓国映画をみるようになって、韓国の音楽や料理に触れるようになって、最終的にはいつか韓国にきてほしい、CJ の人はそう語ってくれたが、そのような考えを日本のマス・メディアは持っていないだろう。

その点を考えると、今音楽で K-POP がはやり、ドラマや映画でも韓流という言葉をよく聞く理由が少しわかる気がする。日本のメディアは国内でシェアを確立し、確固たる立場を築いてきたわけだが、海外に目を向けた努力を感じられない。「クールジャパン」という名のもと、いま日本の新しいカルチャーを海外に発展させていこうという考えがあるが、韓国のメディアの働きとは比べ物にならないように感じた。

また日本の企業と違ってジムなどが会社の中に普通にあることもすごいと思った。その辺は日本とは違った価値観なのかもしれない。朝鮮日報では、テレビ局も同じ社内に入っていることに驚いた。紙メディアだけの限界を日本よりも強く感じているせいなのかもしれない。韓国は日本のメディアを踏襲してきて、新聞の配達制度なども日本を手本に発展してきたが、メディアの持つ視点が日本とはまた異なっていることに興味を持った。そして特に新聞などの紙媒体はこれからどうしていくかという決断を早急に迫られているように感じ、日本もそう遠くない未来に同じように危機感を抱き、問題になっていくのかと思うと少し恐怖も持った。



SBS 本社前

ソウルの街並みは東京とたいして変わらず、本当に海外にきているのかなと思うほどであった。しかし東大門に行った際、時間がそこだけ止まったかのような同じ国とは思えない風景を目にして怖くなった。生活水準が全く都市に住む人とは違う人も多いのかもしれない。発展を遂げたが、格差社会が際立つといわれる韓国。ソウル以外の韓国の郊外や農村に行ったら、もっとその格差は大きいのかもしれない。最初韓国についた際、バスの中からソウル市内の様子を見ていたときは日本と全然変わらないなあと思ったが、そのような格差を感じる点は日本と大きく違うところだと思う。そしてもちろん自分の国が様々な問題を抱えていることは承知だが、自分は恵まれた環境にいるのかなと、改めて考える機会になった。

もう一つ日本とは異なるさを感じたのは、徴兵制があること。ソウル駅に行った際、軍服を着た兵隊さんがたくさん歩いていて驚いた。何か仕事でいるようには見えないし、プライベートのように見えるが、制服を着ている。何なのだろうと思って早紀さんに尋ねたところ、徴兵制の期間は外出も制服を着ていなくてはいけないとのこと。なるほど！とびっくりしたが、やっぱり民間人も兵役があるという日本との最大の差を感じた。

ソウル駅に行った際、日本の東京駅とほとんどおなじような建物を見つけた。日本が韓国を植民地として扱っていた時代にできたのだろう。私がびっくりしたのは、その建物がいまだに存在するということだ。もし私が韓国の人だったら、自分の国を占領されていた象徴のようなものをいつまでも残してはくはないと思うってしまう気がしたからだ。私は韓国に対して親近感を持っているし、歴史も踏まえて今があると思っているが、なんとなく過去の歴史、日本が韓国の人々に対してどのようなことをしてきたか、ということ突き付けられた感じがした。

よくどの国もお隣同士は仲が良くない、と耳にすることがある。近ければ近いほど対立する要因は多いのかもしれない。韓国と日本も領土や歴史の認識に対して争いが絶えない。しかしアジアの発展のためには、アジア内で日本は対立をしている場合ではない。なんとか韓国とも理解を深めることはできないのだろうか、考えるきっかけになった。



SBS「8時のニュース」スタジオ

「異国」にて

A1219140

川村 大和

2013 年 9 月韓国へ行き、新聞社やケーブル TV 会社、放送局などを訪問し印象に残ったことと、明洞の街を歩いて感じたことを書きとめる。

CJ E&M について

このケーブル TV 会社は「文化がなければ国は無くなる」という理念のもとに設立された。映画・映画館や音楽、ドラマ、バラエティーなどの TV 番組、ゲームなど多くの分野を手掛け、世界に通用する韓国の「文化」を作り、発信している。ポップカルチャーのリーダーになることを明確に目標に掲げて活動している。

ただ数ある企業の一つとして利益のみを追求するのではなく、「文化」を創出する明確な目的を持ち活動している点は日本のメディアにはない特徴だ。日本のテレビ産業は第二次世界大戦終戦間際に誕生し、高度経済成長期を経て現在に至っている。TBS やテレビ朝日など、日本の主要メディアの企業理念はどれも「魅力的なコンテンツを生み出す」「優良企業であり続ける」といったものばかりだった。これらの理念は結局、企業の利益以上のものは生み出さないと私は考える。CJ E&M の利益とは別のところに価値観を見出している点は見習わなくてはならないと感じた。

韓国の街並みについて

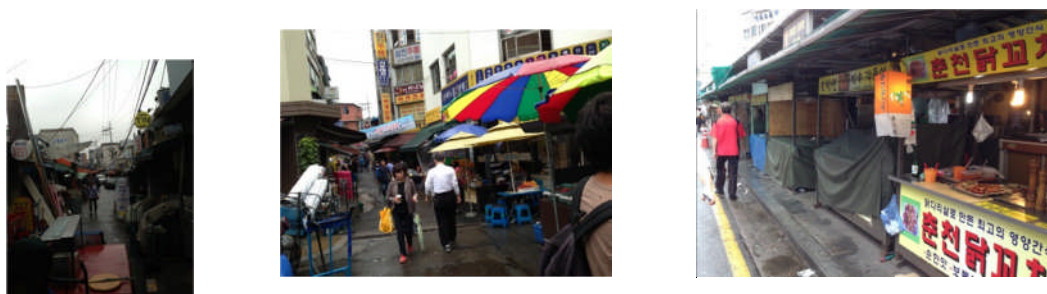
私は高校生の時に見た韓国ドラマで、韓国の韓国らしい町並みのイメージを持っていた。それは「屋台が所狭しと並び、多くの人でにぎわっている」という後進的な町並みだった。実際に明洞を歩いてみると、日本にいるのとそう変わらない感覚を覚えた。まさに都会然とした街並みは私の偏見を打ち砕いた。大きなビルが並び、人々は買い物を楽しんでいる、そこはさながら韓国の渋谷だった。他にも新ソウル市庁舎やテレビ局のビルなど現代的なビルが多く見られた。



※左：SBS ビル 右：新ソウル市庁舎

しかし誰もこの種の偏見を持ったことがあるだろう。偏見は表現を柔らかくすれば「思

い込み」とも言える。思い込みの原因はその国のその国らしさを表す原風景の印象が強いことだ。屋台や古い家屋などが原風景としてドラマやテレビ番組で多々使われているのを見ているうちに、思い込みが作られていく。私は東大門周辺にある大型ショッピングモール街の近くに「韓国らしい風景」を見つけた。(写真：昼時の東大門近くの屋台、商店街)



大型ショッピングモールに客を奪われてしまったのか、どこか寂寥としていた。この夕方になればもっと賑わうのかもしれないが、お昼時には人が少なすぎる。大型資本に淘汰されたシャッター商店街を彷彿とさせる。

資本主義が世界を均一化していく過程が韓国の町並みからはっきりと読み取れた。屋台群を抜けてアーケード街に出たが電気がついておらずほとんどの店が閉まっていた。今までは国の空気は原風景が作ってきたはずだ。日本の町の原風景は木造建築だったが、今はほとんどが鉄筋コンクリートの建物に変わっている。資本主義の枠の中で経済成長を進めると国らしさは失われていくのだと感じた。原風景は消えずに現代的な街の外観に影響を与えるのかもしれないが、そこには面白味は見いだせない。明洞では外国にいながら外国にいる気がしなかった。異国情緒が失われていっているのを感じた。明洞以外の郊外に行けばまだ国らしさは残っているのかもしれない。

韓国の人について

竹島（独島）問題を筆頭にメディアでは韓国は「反日感情を抱いている」という報道をしている。当たり前のことだが韓国人全員が反日感情を持っているわけではない。朝鮮日報で案内してくれた人や、CJ E&M の社員の方はとても優しくしてくれたし、日本に留学に来ている人もたくさんいた。

メディアはなぜ反日感情をあらわにする韓国人しかクローズアップしないのかと改めて疑問に思った。日本人の反感感情を煽ろうとしているのか、煽った先に何を狙っているのか。

最後に

今回の3泊4日の合宿では鈴木先生、ジョン先輩、篠原先輩に大変お世話になった。TV局見学での通訳、移動で全てにおいて任せきりだった。大学生になったのだからプランを自分たちで立てて合宿を実施してみたい。

合宿で得たことを自分の学生生活に生かせるようにしていきたい。

～ゼミ合宿 2014 in 韓国～

A1219177

四家 千晴

2013年9月23日(月)～26日(木)の三泊四日にわたり、ゼミ合宿を行った。羽田空港の国際線ロービーに着くと、集合時間にも関わらず人は全員揃っていないし、搭乗に必要なe-チケットを持っていない人がいたりなど、正直これから大丈夫かなと不安であった(笑)

3時間余りであつという間に韓国、金浦空港に着き、K-POPアイドルのパネルがお出迎えしてくれた。ちょっと面白いHISの方と合流。よく分からない免税店に連れて行かれMACのリップをハウロさんと購入した。免税というだけあって日本国内で買うより数千円安かった。

ホテルスカイパーク明洞2に到着。ビジネスホテルみたいだったが予想よりとてもキレイでテンションが上がった！！この日はみんなで先輩が紹介して下さったお店で石焼ビビンバを食べた。それから私は陳さんとハウロさんと明洞の街へショッピングに出かけたのだが、さすが美容大国韓国だけあって化粧品屋さんの数が尋常じゃなかった。同じブランドのお店が何軒もあり中は日本人客で賑わっていた。シ



ョッピングから帰りその日の夜はみんなで飲み会をしたのだが、その後ホテルが停電するというハプニングが起こった(笑)

正直みんなとてもビックリしていたし(寝ている人以外)ホテル側の方、前もって言ってくれても～と思った(笑) そんな感じで一日目が終了した。



二日目は午前中が自由行動だったのでホテル近くの「明洞聖堂」を見学しに行った。明洞聖堂はカトリックの教会であり韓国で最も歴史が古く、最も大規模な教会として有名とのことであった。お昼にプルコギ鍋を食べたのだが甘くて驚いた。韓国にも辛いプル

コギがあるんだあ・・・と思った。ホテルに集合し全員で地下鉄に乗りデジタルメディア



シティへ向かった。映画博物館を初めて見学したのだがすべて韓国語表記であったのでなんとなくしか分からなかった。その後C&J MEDIAを見学させて頂いた。C&Jの社内はとても綺麗で近代的で驚いた。実際のスタジオを見学させてもらったりリハーサルの様子を見せてもらったりとても貴重な経験だった。ホテルに戻りその日の夕飯はOGの方を交えサムギョブサルを食べた。OGの方

が大学生の頃の話が面白かった。ようやくゼミ合宿らしくなってきた二日目も無事終了。



三日目は結構ハードな一日だったのを覚えている。まず、歩いて朝鮮日報・テレビ朝鮮へ向かった。韓国最大の発行部数を誇っている朝鮮日報なので最初は少し緊張したがとっても優しく笑顔が可愛い男性が案内してくれた。実際のニュースの生放送も見学させて頂いた。実際のテレビ局の生放送がどんな感じなのかを知ることができた。

次に SBS へ移動。韓国では有名なテレビ局でありとくにドラマが人気で日本の TBS とも業務提携

しているとのことだった。日本の「家政婦のミタ」が韓国版としてチェ・ジュウさん主演で放送されていて感動した。昼食は SBS の社食を食べさせて頂いた。日本のテレビ局の社食も食べたことがないのに韓国のテレビ局で食べれるなんてすごい！！と思った。その後 SBS の VIP ルームに通して頂きお茶をご馳走になった。ガイドさんに案内してもらいテレビ局内の施設を巡ったのだが、こんなところまで入らせてくれるのか〜というほど実際のセットやラジオ放送をするところなど普段では入れないような場所を見学させて頂いた。

韓国メディアの見学はこの日ですべて終了だったのだがどの会社も温かく迎えてくれた。反日の考えが根強く残っているイメージだったのでこんなに韓国の人々は日本人に優しいんだ・・・と嬉しかった。その日の夜はホウロさんと陳さんの韓国の友人の方と明洞の街で夕飯を食べショッピングをした。

色々案内していただき楽しかった。夜 10 時から HIS から申し込んだエステに何人かで行った。チマチョゴリを着たりサウナ垢擦りキュウリパックなどがコース内容だったのだが、少し変なところだった(笑)おかしいなと思い帰国して調べてみると酷評されているところだった(苦笑)。旅行会社が薦めるところも疑ったほうが良いということ学んだ。



三日目も終了し最後の四日目。この日は朝に反省会をし自由行動だったので、またショッピングへ出かけた。お昼には食べ忘れていた参鶏湯を食べ満足してホテルに帰った。チェックアウトをして HIS のバスが迎えに来てくれてまたよくわからない免税店に連れて行かれた。こういうところでは買わないほうがいいということ学んだ(笑)。 あっという間に金浦

空港から羽田空港に到着。記念撮影をして解散。無事三泊四日にわたるゼミ合宿も終了した。

こうして振り返ると韓国メディアも見学できて美味しい韓国料理も食べれて最高に楽しいゼミ合宿だと思う。先生、皆さんお疲れ様でした。

日韓は本当に仲が悪いのか：2014 ゼミ合宿レポート

A1219315

田中 雅久

9月23日から26日にかけて2013年度鈴木雄雅ゼミ合宿が韓国・ソウルで行われた。この合宿ではソウルのテレビ局や新聞社を訪問することで日本とのメディアの違いを勉強したり、ソウルの文化に触れたりすることで日本との違いを体感した。

ここ最近日韓関係はかなり複雑化している。竹島をめぐる領土問題や過去の歴史問題など課題が山積みで、ネットでも韓国を叩く風潮や在日朝鮮人を罵倒するということが頻繁に行われている。また、韓国でも大規模な反日デモを実施するなど日本に対しての態度は目に余るものがある。私はそのような中で日本と韓国は本当に仲が悪いのかということを考えながらゼミ合宿に臨んだ。

初日は着いてからホテルのある明洞周辺を歩いた。明洞の風景を見て「劣化版渋谷だ」と言った人がいたがあながち間違いではないと思った。露店のスタッフはあからさまに偽物を買わせようとし、マッサージ店などの勧誘もしつこいくらいだった。しかし、歌舞伎町や渋谷と違い居酒屋などのいわゆる「キャッチ」は全くと言っていいくらいなかった。ここが日韓の違いの一つなのだろうか。ただ、明洞には活気があふれておりソウルの若者文化の発信地なのだと感じた。

二日目は午前中が自由行動だったため景福宮に行ったが定休日では入れなかった。変更し昌徳宮に行ったが特に感想はない。世界遺産らしいが京都・奈良の寺社仏閣ほどの感動はなかった。午後は韓国大手のケーブルテレビ局であるCJ E&Mを訪問。印象に残っているのは"No culture, No country"という言葉。韓流ブームが起きた数年前からここ最近の韓国企業の発展はこの言葉を具現化していると思った。疑問に思ったのはなぜ世界のトップではなくアジアのトップを目指すのかということ。韓国のサムスン電子やLGは世界でトップクラスの企業だが、まだメディアにおいてはそこまでいけないということなのだろうか。ただ、日本のメディアでもなかなかアジアトップを目指すと言っているところは少ない。それゆえ日本は内向き志向な国などと揶揄されるのではないだろうか。夕食後は数人で東大門市場に行き買い物を堪能。明洞でもそうだが観光客が多く集まるところでは日本語を話せないと働けないのだなと感じた。片言の韓国語でいろいろ値切ることに成功したが総じて買い物には失敗した。

三日目は朝鮮日報とSBSを訪問。朝鮮日報は韓国最大手の全国紙。名前はよく聞くが会社内に入れさせていただいたのは貴重な経験となった。驚いたのは朝刊のみしか発行していないということ。しかし、韓国では多くの新聞社が朝刊もしくは夕刊の片方しか発行していないらしい。全国紙は朝夕刊両方発行するのが当たり前だと思っていたので日本と大きく違ってびっくりした。また、テレビ局も併設していて資金力があるのだなと思った。パンフレットを見ると韓国の大手企業のトップなど著名人が朝鮮日報を購読していて信頼度がうかがえる。



ソウル・朝鮮日報本社前での記念写真

午後は SBS を訪問。SBS の本社はソウル中心から地下鉄で 20 分ほど離れたところにある。日本の大手テレビ局は港区など交通アクセスが良く官公庁などに近い場所にある。CJ E&M のあるデジタルメディアシティもソウル中心部から離れたところにある。郊外にメディアの拠点施設を作るといふ国の方針なのだろうか。SBS ではビルの上から順に案内していただき、夜のニュースで使うスタジオに入らせていただいた。思ったより簡素だったが、キャスター席においてあるモニターで進行表を確認できるシステムは先進的だった。日本のニュースでも使われているのだろうか。

最終日は午前中に安重根記念館に数人で訪れた。名前はなんとなく聞いたことがあったが、詳しく知らなかったのでもとてもいい勉強になった。

この合宿ではメディア訪問はもちろん、食文化も堪能した。毎食のようにキムチを食べた(笑) また、ビビンバや焼肉も非常においしかった。韓国のセブンイレブンに置いてあるおにぎりはほとんどが辛い系のものばかりで日本とは全く違う。また、ロッテデパートの人の多さや明洞の活気から、まだ韓国は発展していると感じることができる。

たくさんのメディアを訪問し、初めて知ったことや感じたことがたくさんあった。市民レベルで日韓は陰悪なムードではなかった気がする。普通のソウル観光ではできないことを経験できとても有意義な 4 日間だった。

今後のゼミ研究に生かせればいいのではないかな。

ご飯粒を残さず食べると「こいつ皿まで食う」と言われるらしい。

A1219325

渡邊 拓海

例えば、もしあなたが先輩か誰かとごはんを食べに行くとき、おごってもらえるものだと考えて財布を持っていかない、ということはあるだろうか。私が犯したミスはその手の「認識不足」に起因すると考えている。つまりはアホなのだ。

初めての海外、初めて部活以外の大学での外泊（灰色の青春と呼びたければ呼べばいい、その通りだ）、初めての夏休み中の学科での活動。その初日、航空チケットを忘れた。ネット社会の恩恵がなければ私のゼミ合宿は9月23日の午前中に終わっていたことだろう。生まれてきた時代が良かった。



かくしていきなりスリリングに始まったゼミ合宿初日は移動のみということもありつつがなく過ぎていった。韓国うどんを食し、たかがうどんごときの付け合せに出てきたキムチの残量が食べても一向に減らない現象に見舞われたことと、現地のバスガイドが部屋割の際に若干キレていたことを除けば、の話ではあるが。

出発前一枚。中央が筆者。決め顔っぽい雰囲気だが所詮チケットを忘れた人間だ。

二日目に入り、我々は韓国を知る。

あいにくの雨模様となったが、午前中に私たちのグループは景福宮を見に行った。雨など我々のテンションを下げる要素になりはしない。なぜならタクシーの運賃がありえないほどに安い。だが景福宮は火曜日が定休日だった。雨の中まさかの立往生する日本人大学生。そのまま別の観光地を回っていると「独島は韓国の島だ」と主張するバナーを掲げた建物を発見。ここまで韓国人に優しくしてもらったために忘れていた。彼らと我々との間に横たわる問題に。

午後には韓国のケーブルテレビ局であるCJメディア社を訪問し、「アジア1のエンターテインメント企業になる」「韓国の文化、芸能を全世界に発信する」と息巻く彼らの熱く、ギラついた目は私に韓国という国、その躍進の一端を見た気がした。

三日目、朝鮮日報社とその系列であるTV朝鮮の見学でもこの向上心の底知れなさが身に染みた。「韓国で最も購読数が多い新聞社が、韓国で最もよく見られているテレビ会社を持つ」と言い切った朝鮮日報社の担当氏は言っていた。

四日目は最終日ということもあり午前中は自由行動、チェックアウトして空港へ、となった。私は安重根記念館へ赴いた。安重根は日本人が知る歴史においてはテロリスト以外の何者でもない。殺人犯であり、危険なナショナリストだ。だが韓国の歴史において彼は

救国の英雄であり、大日本帝国の支配を脱却する礎となった人物だ。ここにも歴史観は食い違うのだな、と強く感じた。

かくして東京へと帰り着いた私が得たものは多い。

日韓の広告手法の違いは新鮮だった。日本の広告が文字を主体にしているのに対し、韓国ではよりビジュアルの部分、グラフィカルな部分で意図を伝える傾向にある。以前から聞き及んでいた日韓で解決すべき問題もはっきりと理解できた。

そして私は彼らから学ぶべき最大のものは「食欲さ」だと思った。ここからさらに大きくなってやる、俺たちはこんなもんじゃない、という向上心であり食欲に上を目指す心構え。何かと安定をよしとする日本のマス・メディアのみならぬ風潮を許容してはやれ国際競争力だのなんだのと言っている場合ではないのでないか、とも考える。

そんな思いを抱いてかえってくるとき、郵便受けに9月23日発の飛行機のチケットが突っ込んであったが、これは捨てるに捨てられない。



初日の韓国うどん。勝手にキムチを投入したがこれが正しい食べ方かは不明。

かけがえのない四日間@ソウル

A1219419

FANG LU

はじめに

2013年9月23日から26日まで雄雅ゼミのソウル合宿が無事に終わった。かけがえのない四日間だった。朝鮮日報社、TV 朝鮮、SBS、韓国映画博物館、CJ MEDIA など。もしゼミ合宿ではなく普通の観光者だったら、体験することができないであろうところがたくさんあると思う。日本と違った韓国の社会、メディア文化や会社見学などに体験させていただいて、日本で留学している私にとって、貴重な経験を積みました。

アジアにおいて、中国、日本、韓国三か国はきわめて重要な役割を果たしている。歴史の原因で、日本と中国、韓国と日本の間でよく摩擦が起きる。今まで、本やテレビを通じて知られた韓国と実際に自分で体験した韓国はやはり違ったところたくさんあった。中国にいたときに、ソウルに対して外的なイメージは上海みたいに高いビルたくさんあって、きわめて繁栄な町的な印象だった。しかし、実際にソウルに行って、意外に高いビルばかりではなく、洗練された街の印象があった。まだずっと日本より昔ながらの国の文化が残っているというかもしれない。そこかしこに新旧の文化のぶつかりあいのようなものを感じた。例えば、整備の行き届いた地下鉄構内の中で、餅やお菓子を地べたに座り込んで売るおばあさんがたくさんいる。

朝鮮日報と TV 朝鮮

朝鮮日報社に入った瞬間にインクのおいしがした。社員の方が親切に印刷の原理を説明していただいた。韓国最大の発行部数の新聞社だったけど、日本と比べられないようだ。その一番の原因はやはり両国の配達制度の違いによって新聞の発行に影響をもたらした。TV 朝鮮で生ニュースの放送を見られて、とてもいい経験になった。韓国のスタジオ室はきわめて広い印象を残った。生ニュースの現場はやはり緊張感があふれる。



朝鮮日報本社前 2013年9月25日



CJ E&M 会社前 2013年9月24日

CATV 会社 CJMEDIA とテレビ局 SBS

「文化がなければ、国もない」という CJ E&M の会社信念に惹かれた。韓流なぜ世界に広がったかという理由もちょっとわかるようになった。中国において、J-POP より K-POP のほうがはやっている。テレビ局も韓国の歌手がよく見られる。韓国の国内市場が小さく

て、人口は日本より少ない。海外に進出すれば、音楽やドラマの影響力を借りて、韓国のイメージをあげて、それによって観光客が増え、韓国文化の宣伝にもなるような効果があると思う。実際に韓国の街場に歩いて、日本語や中国語しゃべれる韓国人がたくさんいる。買い物もあんまり支障がなく、普通に通じる。また、観光地や空港などに韓国有名な歌手の広告はどこでも見られる。日本をはじめ、中国、タイ、ベトナムでも韓流ブームになっている。韓国政府も韓国の歌手などに力を入れたようだ。韓国の娯楽ブランドの戦略として海外に進出してきた。ここで、マスメディアの社会影響力は強く感じた。

安重根義士記念館

ソウル市中心部の南にある南山（ナムサン）一帯に南山公園が広がり、その中腹に安重根義士記念館がある。明洞のホテルからタクシーで安重根義士記念館まで 20 分ぐらいで行ける。歴史を振り返ると、安重根は韓国の英雄ということが初めて知っていた。日本の初代総理大臣で有名な伊藤博文を暗殺した人物で、伊藤博文は安重根によって旧満州地方の



が安重根が旅順の獄中で書いた

ハルピン駅で射殺された。自由行動なので、5 人で行ってきた。「なぜここに行きたいですか」私は同行していた日本人のクラスメイトに聞いた。

「安重根は日韓の歴史上において重要な人物です。自分で客観的な立場でこの歴史について、もう一度自分で確かめたいです。」と答えてくれた。歴史認識は大事だと思う。過去で発生したことを認識しながら、前に進むべきだ。最近、日本ではヘイトスピーチという在日朝鮮人に対する憎悪デモ

あった。東京オリンピック招致で言われた日本の「おもてなし」文化のスピーチとの違和感を覚えた。歴史、他国文化などに対してマス・メディアや他人に左右されないように、きちんと自分の考え方を持って、判断するべきだ。



韓国・食 私は毎食キムチを食べた。日本に戻っても、韓国のキムチが忘れられない。韓国式の焼き肉を食べる時に、キムチは食べ放題なので、食べ過ぎて、優しい店員さんにキムチ食べ過ぎると胃が悪くなるよというアドバイスをもらった。けど、食べれば、食べるほどおいしい。写真は町でどこでも見られる韓流スターの看板との写真。下は毎日食べていたキムチ鍋。

終わりに

四日間は早かった。しかし、今回のゼミ合宿を通じて、自分の知識の不足さを痛感した。今回のソウル合宿はもちろんいろいろなことを見て、視野を広げることも大事だけれど、最も重

要なのは、視野を広げて、見方を変えて、多角な視点からものことを見ることも大切な事だということを改めて認識した。また、ものごとに対して、「常になぜという疑問を持つ」のも認識できた。これからの大学生活で頑張りながら、自分を見直したい。

感謝：鈴木雄雅先生のおかげでこんなに良いゼミ合宿を企画していただいて、ありがとうございました。韓国で親切に案内していただいた会社みなさんと先輩がた、ありがとうございました。

2013 鈴木ゼミ 韓国合宿レポート

A1219458

陳 藝云



今回のゼミ合宿はソウルに行ってきた。人生初めてのゼミ合宿で、思ったよりずっと楽しかったし、たくさんの素晴らしい思い出ができた。先生のおかげで、普段参観できないテレビ局や新聞局に見学することができて、本当に貴重な経験になったと思う。見学することを通して、私はメディアについていろいろ考え直した。これからはこの四日間に印象を残ったところや勉強になったことを書きたいと思う。

着いた二日の日に伺った「CJ E&M」という韓国の有名なメディア娯楽会社に、今まで見たことのないスタジオが見られて、すごく興奮していた。韓国人の友達に聞くと、CJ E&M という会社は韓国ではかなり規模の大きい会社で、普通の人だったら絶対入れないと聞いた。まずびっくりしたのは会社の外観だ。ぜんぜん会社の感じかなくて、とてもきれいでおしゃれな建築だ。CJ E&M 会社の紹介ビデオを見てから職員さんに会社について少し紹介していただいた。この会社は「文化」を重視すると彼は言った。「文化」がないと「国」がないという文を聴いたら、私は韓国のメディアの発展についてもっと深く考えた。だいたい十年前から韓国ドラマや k-pop などが一気に流行ってきて、現在でもアジアですごいブームとなっている。なぜこんな短い時間に韓国メディアはアジアの印になっていたかについて私は考えた。CJ E&M 会社の紹介を聴いて、やっと分かった。なぜなら、CJ E&M のような韓国のメディア会社は「国」を原点としてメディアを発展しているからだ。韓国に比べて私の出身国台湾はそんな「国」から海外に発展する考えは持っていないと私は思う。その違いはなにかというと、韓国は国からメディアを「海外」に発展するのに対し、台湾は「国」という枠組みに囲まれていて、メディアや娯楽を海外に進出させる野心を持っていないじゃないかと私は考えた。文化を元にし、ドラマや音楽を海外に進出することを通して、海外の人々に自国の文化を知らせることもできるし、国へのいいイメージも持

たせるようになるのでしょう。日本もそうである。アニメや漫画を海外に進出させることで、今でも世界の中に一部の市場を占めている。そう考えたら自分の国台湾はまだ自国に囲まれているような感じがする。なので、もし将来私は台湾でメディア業界に入ったら、国の文化や中国語などメディアを通して世界に伝えたいと思う。大げさかもしれないけど、これは今回 CJ E&M に見学した感想だ。もちろん会社の中のスタジオや設備などもすごいと思うが、一番心に残ったのはやはりこの「メディア」と「文化」の繋がりだ。

次の日に朝鮮日報と SBS というテレビ局に見学した。韓国人の友達に聴いたら、朝鮮日報は少し年のある人向けの新聞で、若者はあまり読まないと聴いた。なぜかと聞いたら、朝鮮日報は若者にとってちょっと堅い新聞紙からだそうだ。しかし、会社に入ったら私はそんなに厳しい雰囲気を感じない。朝鮮日報で一番印象が残ったのはやはり生中継のニュース放送だ。韓国で生中継を見ることができて、本当にいい経験だと思う。ただ見ているだけなのに、私はその場にいてすごく緊張していた。アナウンサーたちは原稿を見ずにペラペラに報道を言い始めた。何分間しか見ていなかったけれど、私にとってはとても貴重な経験だ。

最後に SBS という韓国の民放テレビ会社に見学した。SBS は韓国では大きなテレビ会社で、たくさんの有名な韓国ドラマや映画などを作った会社だそうだ。SBS がテレビ会社といっても、中にはレジオのスタジオがある。そこラジオの生放送を見た。テレビの中継よりは少し楽かもしれないけど、考えるとあそこで仕事をするアナウンサーたちはやはりたくさんの資料を準備したり、頭の中に知識をたくさん入れたりしないと、なかなか難しい仕事だと思った。

韓国でいろいろなメディア関係の会社を見学することのおかげで、私は将来メディア業に就職する意識をもっと深くなってきた。なぜなら、メディアは現在人々の生活の中に一つの欠かせない部分となっている。メディア人としてはそれなりの社会責任を持っている。例えばニュース番組を作る人たちは国民に正しい情報を伝える責任を持ち、バラエティーを作る人たちは人を喜ばせる責任を持っている。私も、その人たちのように社会になんとかしたいと思っているからメディア人になりたいと思う。

先生のおかげで今回のゼミ合宿はとても楽しかったし、いろいろ勉強になった。本当に鈴木ゼミでよかった。機会があったら、国内よりまた海外のメディア産業を見学し、グローバルな視野でジャーナリズムを勉強していきたいと思う。

メディア各社をめぐって気づいたこと ～はいはい、キムチキムチ～

A1219463

手島 崇之



我々は今回のゼミ合宿で韓国に旅立った。個人的な事情ではあるが、私は今回韓国に行くに当たり、日本の隣国でありながら、日本とはまた違った国の空気を感じられることを楽しみにしていた。そして実際に行ってみると、もちろん行った場所にもよるが、韓国の、それも明洞周辺が観光客ライクな場所であるということを実感した。

町には日本円との両替所があふれ、片言の日本語があちこちで飛び交っている。そして、日本の、主にインターネットで言われているような反日感情を実感することはなかった。確かに韓国のそういった施設に独島（竹島）は我々のものだ、とする記述はあったが、日本の国旗を燃やしたり、デモを行ったりという事が信じられないほど、我々が行った場所は親日的だった。我々のメンバーの中に韓国語を第二外国語で履修しているメンバーはいなかったが、特に言語で困ることはなかったのもそのためだろう。だが、食文化に関しては必ずしもそうとも言い切れない。どこの店に行っても、何を頼んでも付け合せとしてキムチが出てきたり、辛酸っぱいような不思議な味の料理が出てくるのは、韓国の文化として受け止めるのに時間がかかった。特にキムチに関してはワッフル屋に行ったとき以外は毎食食べていた。また、セブンイレブンでおにぎりを3人で7つ買って、そのうち4つがキムチに似た味だった事は忘れられない。

本題のメディア各社であるが、それに関しても私は日本とのプラットフォームの差が大きいな、と感じた。正直なところ、最初に訪問する先がケーブルテレビと聞いた段階で、そこまで大手の会社ではないと私は考えていたが、実際に行った CJ メディアは予想に反してかなりの規模を誇る会社だった。これは、韓国ではケーブルテレビがいまだ大きな市場であることを示しており、会社で聞いた説明ではケーブルテレビだけでなく映画や音楽やゲームなども配信している、とのことだったので日本ではCSなどのチャンネルとIT系の会社がメディアミックスされた一つの形なのだという事を感じた。また、日本にはそこまで浸透している



CJ メディア前 8月25日

ようには感じられなかったが、海外に向けて韓国の文化を配信していく、という目的をうまく果たしているように感じた。

また、朝鮮日報やTV 朝鮮では既存のテレビチャンネルの他に多くの会社がチャンネルを持てるようになったことによりテレビ事業に参入するようになった、という話があったが、前述のケーブルテレビなどのチャンネルが浸透している韓国のプラットフォームを考えると厳しいと言わざるをえないだろう。全体的に言えるのは映像の配信方法が日本に比べるとそこまで多くなく、その大きな位置を占めているケーブルテレビなどが多チャンネル化することによって日本と同じぐらいのチャンネルの多様化をすすめている、といえるのではないだろうか。

日本と違うな、と感じた点は他にもある。アプリなどのスマートフォンとの連携機能の高さである。日本ではスマートフォンのアプリの市場ではテレビ局は番組の放送情報を流す形か、コンテンツを二次的に売り出す形でしかアプリを作らないのに対し、韓国ではコンテンツをそのままアプリで流す。具体的に言うならば、日本ではフジテレビが番組情報を流すアプリを作ったり、ドラマ『踊る大捜査線』のスマートフォン用着せ替えアプリを作っているのに対し、韓国のCJメディアではTVnというアプリで番組の視聴ができるようになっている。そしてラジオでも似たような例がある。日本ではradikoという会社が社名のついたアプリで株主として参加している局のラジオを一括配信し、アプリ内でラジオ番組のチャンネルを切り替えるのに対し、韓国ではラジオ局ごとにアプリを作っている(SBS ゴリラなど)。こういった点からうかがえるのは韓国では一つのメディア会社がインターネットを通じた事業展開という観点において日本より意識が高い、という事ではないだろうか。

日本にいたるだけでは、地上波放送とBS、CS ぐらいしか多くの人は見えていないだろうし、ケーブルテレビなどはそこまで配信量が多くはない。日本でのケーブルテレビの需要は地上波の代理放送を行ったりすることぐらいであろう。しかし、それ以上に韓国ではケーブルテレビ・チャンネルの需要と供給が多いという事に気づいた。



(写真左が SBS マスコットのゴリラ)

また、メディア各社の捉え方も、テレビならテレビ、新聞なら新聞、ラジオならラジオ、と完結して終わるのではなく、そこからスマートフォンのアプリにつなげたり、そもそもコンテンツ自体をスマートフォンやインターネットで配信する、という形をとっている点が日本とは異なるように感じた。つまり、私は今回のゼミ合宿で国によって違う、多くのメディアに対するプラットフォームのあり方というものを感じられたと思う。そして私はこれからもこういった貴重な機会を持てたら、と思った。

すごくキムチいい♡ゼミ合宿

A1219596

細野 裕希

鈴木ゼミ生全 18 名は、2013 年 9 月 23 日から 9 月 26 日までの四日間にわたる合宿を韓国にて行った。今回の合宿の目的は「海外メディア社の現状と問題点を探る」というものだ。我々はこの四日間のうちにいくつかのメディア施設を訪れた。韓国のメディアについてさまざまな知識を得られたことはもちろん、初めて行く異国での生活は文化や食など他方面においても得ることが多かった。したがってこの合宿では目的以上の成果を挙げることができたと言うことが出来る。このレポートではその成果の数々を紹介していく。



韓国うどんと私

一日目、我々は朝早くから羽田空港に集合し、約二時間のフライトを経て韓国に到着した。皆は自由時間に免税店に行くなど、海外ならではのショッピングを楽しんでいたが、私は買い物よりも食文化に興味があったので数人の男子ゼミ生と一足先に韓国料理に舌鼓を打った。冷麺を頼んだのだが、話に聞いた通り、キムチが付け合せとして出てきた。これは韓国にいる間に取った食事全てに共通していることで、朝食のバイキングにさえキムチがついてきた。さっそく異国の文化の洗礼をうけたのである。韓国合宿を通して一生分のキムチを食べてしまった気持ちになった。夜は鈴木ゼミのメンバー全員で韓国料理であるビビンバやチヂミを食べ、解散となった。この日はほぼ自由時間であった。

二日目は午前が急遽自由時間となったので、アサイメントである東大門と東大門総合市場を訪問した。まず、驚いたことが、韓国のタクシーの安さである。日本のタクシーとは比べ物にならない安さから、我々はタクシーを多用した。東大門は残念ながら火曜日が定休日で見学が出来なかったのが、諦めた我々はすぐにタクシーを捕まえ、東大門総合市場へと向かった。総合市場はトッポギなどの韓国料理屋台を筆頭に、洋服やキルトなどの布製品、子供向けの玩具を売る露店が所狭しに並んでいた。日本の東京ではまず見られない景色に圧倒された。しかし、私を含めた一緒に行動したゼミ生たちの誰も何も購入はしなかった。恐らく日本よりも不衛生に見えたことが原因だろうと思う。衛生面への気配りに日本人は少し神経質すぎるのではないか、と思った。



東大門総合市場

午後は韓国映画博物館と CJ Media へと足を運んだ。映画博物館は韓国に映画媒体が入ってきてからの約百年間の歴史を記録した施設である。説明書きが韓国語だったので詳細をすることは中々難しかったが、常設展示コーナーでは壁に沿って韓国映画の歴史が一目でわかる「韓国映画タイムトラベル」が印象的だった。このコーナーでは各時代の関連映画ポスターや BGM を観賞することができ、韓国の映画をより身近に感じることができた。その他のコーナーでも 35mm parvo カメラやフィルムカン、ベルリン映画祭名誉金熊賞の

トロフィーなどが記憶に強く残っている。次に訪れた CJ Media は映画製作・配給、ケーブルの MSO、公園企画などを行う会社である。そこで見た韓国芸人の漫才の勢いには言語の壁を超えた笑いが伝わってきた。



三日目はとても忙しかった。まず、午前には朝鮮日報社・TV 朝鮮訪問見学。拙い日本語ではあるものの、一生懸命プレゼンで朝鮮日報の紹介をしてくれた施設の方にはすごく好感がもてた。1920 年に創立された朝鮮日報は 92 年の歴史を持ち、毎日 180 万部の新聞を発行する韓国最大手の新聞社である。日本を新聞先進国と言って頂いたことはすごく嬉しかった。また、日本と韓国の新聞が配達制度で似ているが、アメリカやヨーロッパは販売店で購入する制度で相違点があるという指摘は興味深かった。巨大な印刷施設を見せていただいたことや、ニュースキャスターがニュースを実際に読み上げる所を見学させて頂いたのはこの合宿中で最も良い経験になった。

次に見学したのは SBS という韓国の首都圏を放送エリアとするテレビ・ラジオ兼営の放送局である。ここでは社員食堂で定食をごちそうになったり、V.I.P ルームでドリンクをごちそうになったりと手厚い歓迎をしていただいた。SBS で現在放送されているドラマの中には日本で大ヒットを記録した「家政婦のミタ」をリメイクしたものがあつたりと、親近感を持った。ラジオの放送も年代ごとに違ったターゲットがあり、その層が最も聴くであろう時間を選択して放送していることに驚いた。



四日目は朝からミーティングでそれぞれがこの合宿を通して気付いたことや良い経験になったこと、疑問に思ったことなどを報告し合った。皆、この合宿が相当楽しかったようで早朝にも関わらず目を輝かせながら発見したことを喋っていた。そのあとは帰国のフライトの時間まで自由時間が設けられていたが、私は前日に夜更かしをしていたので宿で寝て過ごした。この時にみんなと出かけていればよかったと今でも後悔している。

最初、三泊四日の合宿は長いと思ったが、個人では経験できないような韓国メディア施設での体験のおかげでとても濃く、退屈することのない時間が過ごせた。来年はまた違う国のメディア事情をゼミ合宿で研究したいと思った。

2014 韓国ゼミ合宿に参加して

A1219691

姫野 杏奈



9月23日から26日の4日間の韓国ゼミ合宿に参加した。この合宿で、実際に新聞社やテレビ局を見学し、お話を伺ったことにより、わずかではあるが日本と似たような環境と特徴をもつ韓国メディアについて理解し、興味をもつことが出来たことが収穫であった。また、韓国の歴史的建造物から日本との歴史について考えさせられた機会にもなった。初めての韓国ということもあり、東大門や明洞での買い物や韓国料理も存分に堪能することができ、大満足の4日間だった。

1日目(9月23日)は、羽田空港に集合し2・3年のゼミ生と鈴木先生の16人でソウル・金浦空港に向けて出発した。機内食のそばろご飯が想像以上に美味しかった。金浦空港に到着後、早速3年の称原さんが行方不明になるなど怪しい出だしではあったが、HISの現地スタッフに連れられバスに乗った。おばさんオプションの押し売りを聞き流しながら、ソウル市内の風景をバスの中から楽しみ、日本と似ているなという印象を受ける。免税店に立ち寄ったあとホテルに到着。夕飯は韓国在住の先輩に連れて行ってもらった、石焼ビビンバの店だった。ここで食べたキムチが韓国滞在中に食べたキムチの中で一番美味しく、我慢出来る辛さだった。その後、夜の明洞の町を歩きながら買い物をし、部屋に戻った。この日私は午0時過ぎに寝たがその後、1時にホテルの部屋が停電するというトラブルが発生したそうだが、何も知らずに爆睡していた。

2日目(9月24日)は、朝からあいにくの雨だったが午前中は地下鉄に乗り、ソウル駅に向かう。

ソウル駅の旧駅舎は東京駅にそっくりだった。かつては南大門駅と言われており、1910年の日韓併合後、京城駅に改称され中心駅として新駅舎が竣工された。これが現在も残る赤煉瓦の駅舎であり、当時は日本の東京駅につぐ東洋第二の規模の駅舎と称されたそうだ。京城駅は満州方面の国際列車を扱うなど、朝鮮半島の鉄道輸送において中心的役割を果たしたと言われている。

午後はCJメディアを訪問した。ここは韓国のケーブルテレビ会社で、韓国内で18チャンネルをもつという大きな会社であった。この見学で一番印象に残った言葉は「No culture, No country」という会社の理念だ。その言葉通り、CJの事業はケーブルテレビにとどまらず、文化を創出するという意味に基づいて、映画館の経営やドラマ制作にも広がっている。

CJ メディアは現在韓国国内だけでなく、アジアを中心に進出しており、日本やアメリカにも支社がある。韓国の文化を世界に広げていくという強い意志が感じられた。

この日の夕飯は、サムギョプサルだった。鈴木ゼミ卒業生の天野泉（2007 年 3 月）さんと韓国留学中の尾上彩子さん（3 年生）も交えてとても楽しい時間だった。

3 日目（9 月 25 日）は、朝から朝鮮日報に向かった。朝鮮日報は韓国の中でも一番の新聞発行数を誇っている会社だ。また朝鮮日報は 2 年ほど前からテレビ局も開局した。今回の見学では印刷までの流れの説明や、新聞とテレビの編集室、編集会議が行われる会議室、また実際に生放送が行われているスタジオの見学もすることができた。韓国の新聞はここ数年で、一気に購読数が減少している。SNS などのインターネットメディアが日本よりも更に浸透しているからだ。日本は韓国よりもその発行部数や購読者は多いが、韓国と似たような環境をもつ日本のメディアもいずれ同じような状況にも直面する可能性もあるという鈴木先生の話が印象に残った。

午後は SBS を訪問した。ここではテレビ局と隣接するラジオ局も見学することができた。SBS でもスタジオ見学をし、やはり SBS のほうが朝鮮日報よりもスタジオが立派で大きな機材もあり設備が充実しているように見えた。SBS で一番印象に残ったのは、社食のおでん定食が美味しかったことだ。この日は、明洞で明洞餃子という行列ができる店に行った。うどんと餃子はとても美味しかったが、ここのキムチは辛すぎて食べられるものではなかった。その後、韓国最後の夜は買い物に全力を注ぎ、クタクタになってホテルに戻ってきた。

4 日目（9 月 26 日）はホテルから空港に出発するまでの時間、免税店や明洞でお土産を買い、韓国料理に飽きていたため昼食はお好み焼きを食べた。韓国で買い物をして気づいたことは、どこの店に行っても店員が韓国語・日本語・中国語・英語を話すということだ。日本で観光地にいってもほぼ英語しか通じない。韓国、特にこのソウル市は日本人や中国人の観光客によって産業が成り立っている部分があるのではないかと考えた。

4 日間の韓国合宿は、今まで興味をもたなかった韓国メディアへの意識をむけるきっかけになった。また同時に海外メディアに目をむける前に、日本のメディアについてもっと知識を増やしていきたいと思った。現地のスタッフや韓国の人はみな親切で、初めての韓国でのゼミ合宿は私にとって貴重な経験となった。今後の学びに活かしていきたい。

鈴木雄雅ゼミ韓国合宿レポート

A1219756

佐藤 諒

日本と韓国は海で隔てられているものの隣国であり、似ている点が多い。文明形成期においてアジアの中心であった中華文明も影響をともに強く受けており、文化の根本的な部分で類似している点が数多く見受けられる。それを強く感じたのは二日目の自由行動中に行った昌徳宮でのことだ。昌徳宮は正宮ではなく離宮だが、謁見の間や官位整列場など厳かさを持っている。その造りは違いこそあるが日本の時代劇で見るとような古城、あるいは寺のよそおいに非常に似ており、共通のルーツを感じさせる。一緒に昌徳宮を訪れたゼミ生が言っていた、「テレビでここが日本だって紹介されたら信じる」という言葉が印象に残っている。



昌徳宮の様子

またほかにも、韓国と日本の文化的類似点は現代においても色濃く出ている。ソウルをはじめ明洞の繁華街は日本の都会を連想させ、ほかのゼミ生たちが口々に「海外に来ている感じがしない」と言っていたが、私も同じように感じた。欧米の都会とも少し違い、アジア圏特有の都会の雰囲気があり、特に少し昔の日本の渋谷の様子によく似ていた。また、東大門そばの市場は日本のアメ横に似た雰囲気であり、乗った電車の路線図も日本首都圏の山手線をはじめとする路線図と見間違っただけでそっくりだった。

観光をした限りでは韓国は、日本にものすごく似ており、先進国になったタイムラグのためか映像などで見る昔の日本に近いと感じた。(もちろん鏡張りのビルや物価など違いもたくさんあるが)

しかし、ジャーナリズムという観点から見れば、日本と韓国は全くと言っていいほど違う。朝鮮日報をはじめ、CJ MEDIA などを見学し企業理念などを聞き根本の部分で違うと思った。

特にテレビでは日本型の全国報道を中心としたテレビ局ではなく、どちらかといえばアメリカ型のケーブルテレビがシェアの中心を占めたローカル中心型である。韓国全体を対象にした CJ

MEDIA とソウルの SBS を今回見学させてもらったが、やはりテレビ局としては人気、シェアともに SBS に軍配が上がる。

実際、私が韓国で見た番組の放送もとは SBS のことがほとんどだったのを覚えている。新聞も日本のような配達中心の販売方法ではなくアメリカ式の設置販売型がメインの新聞販売方法のようだった。また、次に感じたのが今の日本メディアにない勢いである。現在、日本メディア産業は斜陽になりつつあり、特に新聞には昔の勢いが無い。

今回は見学会ということでいい部分だけを見せられ実態を直接見聞きする機会がなかった点もあるであろうが、韓国国民の特にテレビへの依存は日本以上にあると思える。日本では現在、「半沢直樹」(TBS、2013 年)のような例外を除き、高視聴率や話題を集めるドラマは少ない。しかし、韓国ではまだまだドラマの人気も高いようである。また、海外で生まれた番組を輸入し、リメイクして放送することが多いのも特徴だろう。逆に日本では海外の番組をリメイクすることはとても少ない。

もちろん、そのほかにも日本との違いを感じるが多かった。特に感じたのは食文化について。どの店にもおそらく自家製のキムチがお替り自由で置かれているのはカルチャーショックだった。また、繁華街だったものだろうが、出店が多く韓国独特の食べ物や果物をその場でシェイクする飲み物が多く見られた。出店の中にはコピー商品を売っている店もかなりの数あり中には「コピー商品いりませんか」と声かけをしている店もあり、衝撃的だった。

ともあれ、今回の韓国合宿は似ているも違う文化と自国の文化を比較し、見直すいい機会となった。特にメディアに関しては同じアジアの国でありながらまったく違う日本メディアの在り方に生かせる点が多いはずだ。町並みだけでなく、ドラマなどの趣向など民族性も似ているため、なお参考になるだろう。また、韓国のメディアにもスマホとの関係など今回の合宿で触れられなかった点を考えていきたい。



合宿参加メンバー、朝鮮日報社にて 9 月 25 日

ゼミ合宿 in Korea 2013

A1219899

佐藤 優紀子

～CJ メディア編～ 2 日目に訪問した『CJE&M』。CJE&M は、デジタルメディアシテ



ィ駅が最寄りである。この駅周辺には 2002 年に行われた FIFA ワールドカップの競技場ともなった『ワールドカップ 競技場』や新しく建設されたと思われるビルが林立しており、近年開発されている地区であることがわかる。まず、中に通され会議室に向かった。ここで CJE&M の説明をうけた。CJE&M の方によると、「文化を創ること」を企業理念としているという。最初、この言葉を聞いたときはケー

ブルテレビ社が文化を創れるのかと非常に驚いた。しかし、私は説明を聞いていくうちにこの CJE&M は韓国の文化を世界に創っていくことを目標にしているのではないかと考えた。日本の大手ケーブルテレビ会社と比較してみると、韓国がいかに世界に視点を向けているかがわかる。実際に日本に帰国してから、日本の大手ケーブルテレビ会社である J:COM のウェブサイトを覗いてみたが、J:COM は世界にはほとんど目を向けていない上に、どちらかという日本のあらゆる地域に視点を向けた指針であることがわかった。いかに、韓国が世界に自分たちの音楽、映画、テレビ、スポーツを広めていきたいのがわかった。また、実際に使われているスタジオや、録画された音楽番組の編集作業を見学する機会があり、とても良い経験となった。日本のケーブルテレビの会社を見学したことがなく、いまいち比較することができなかったのも、機会があれば日本のケーブルテレビ会社を訪問してみたいと思う。

～朝鮮日報編～ 3 日目の朝早く訪問したのは韓国で最も購読者の多い朝鮮日報だ。この朝鮮日報は近年テレビ事業も始めたということもあり、建物の中にはスタジオも構えられていた。私が、朝鮮日報について不思議におもったことは、韓国で最も購読者の多い新聞と言われているにも関わらず、購読者数が 180 万と日本に比べて非常に少ないということである。韓国の人口は日本の人口の約半分であるのに、日本で最も購読者の多い読売新聞の購読者数約 1,000 万部の半分にも朝鮮日報は及ばない。そして、韓国の他の新聞社は 100 万部も超えていないという。さらに、日本の新聞のほとんど朝刊と夕刊の 1 日 2 回新聞を発行しているのに対し、韓国では朝刊しか発行していないともいう。これはどうしてなのだろうか。少し関心があるので、時間があるときにこの謎を解いてみようという今回のゼミ合宿中に思った。また、朝鮮日報では、生放送中のスタジオを見学することができ、日本でもなかなか経験することができない貴重な体験をすることができた。そして、そのスタジオで感じたことは意外にも少ないスタッフで番組を作っていることだ。その日のスタジオにいたのは、アナウンサー 2 人とカメラが数人、他のスタッフも 1 人か 2 人だった気がする。もっと多くのスタッフで番組が運営されていると思っていただけに、今回の見学ではびっくりした。

～SBS 編～ SBS は 3 日目の 14 時からの見学となっていた。早めに着いてしまった私たち



たちは SBS の社食を食べることになった。私は、SBS の社食の現代的？なシステムに非常に感心した。現代的と言うほどではないが、メインの料理を 2 種類から選び、副菜などを自分で取っていくのはとても効率的であると思った。また、窓からは光が差し込み社食の雰囲気がとてもいいので、ここで働いたら仕事に戻りたくないと思うなと感じた。社食の後には実際に SBS 内を見学。私は以前韓国の歌手にはまっている

時期があったので、いくつか知っている番組などもあり非常に楽しかった。SBS でも、生のラジオ番組を見学することができたので、とても楽しかった。SBS の外観もとても素晴らしい構造をしていると思った。日本テレビと提携しているらしいが、私はちゃんと NTV を見たことがないので、今度 NTV に行つて SBS の外観とも比較してみようと思う。

～韓国の街並み・食べ物編～ 今回、私たちが泊まったのは韓国・ソウルの中心部である明洞である。私は今回のゼミ合宿で 3 回目の訪韓となったが明洞はいつ来てもにぎやかな繁華街である。朝、昼は割と落ち着いているが、夕方近くになると人も増え、食事処や雑貨屋、洋服屋は多くの人でにぎわっている。明洞は日本のどこに当たるのだろうか。渋谷、原宿…。どちらかという、原宿だろうか。私はそんな気がする。訪韓中には、さまざまな地に行った。そのうちの一つであるソウル駅にはびっくりした。旧ソウル駅の外観は日本の東京駅の外観と瓜二つなのである。調べてみると、旧ソウル駅は日本統治時代に建設されたもので、現在は使用されずに保存されているという。現在のソウル駅構内には多くの徴兵を受けている若者がデートなど余暇を楽しんでいる様子うかがえた。軍服を着て駅の構内にいるのも日本とは違った文化であることを感じさせられる。東大門にも訪韓中訪れた。東大門はあまりきれいな街とは言えないが、ここの夜の盛り上がりはとてもすごい。日本では深夜まで営業しているファッションビルはおそらく存在しないだろうが、この東大門エリアのファッションビルの多くが明け方まで営業している。日本では考えられないことだ。おそらく、明け方まで営業できるのは韓国も日本と同じように治安が他国に比べて良いからではないだろうか。



食べ物に関して言えば、私は辛い物は得意だと思っていたが（日本で食べる辛い物はだいたい余裕で食べることができた）、訪韓中一度だけ本当に食べきれなかった韓国料理がある。それがこの写真の食べ物だ。おそらく、そこまで辛そうには見えないが実際食べてみると胃がき

りきりするほど辛い。緑のそうめんのようなものにコチュジャンなど辛さのあるものが練りこまれている。しかし、辛かったもののとてもおいしかった。今度はもっと辛い物が得意になってから再挑戦したい。他にも韓国ではトッポギやビビンバ、サムギョプサルなどたくさんの韓国料理を味わうことができ、良いゼミ合宿となった。

あとがき

今回私がなぜ合宿係を務めたのか、合宿が終わっても疑問に感じるのはいうまでもない。なぜならば私はまだ 2 年生。そう、つまりゼミではピチピチの新米なのだ。しかし、どことなくというかかなり頼りない 3 年生に係を任せてしまうと、韓国に行くどころか東京から出られないのではないかと考え合宿係になることにした。

H.I.S の担当者の方と何十回もやり取りするのは正直疲れた。電話も飽きるくらいかかってきた。一瞬交際しているのかと錯覚したほど連絡を取り合っていた。いかに OL と学生の適切な関係を維持するかという問題と向き合ってきた。そんななかまたもや 3 年生。(まじかよ www)

合宿に参加できない人が現れたり、無断で一人部屋を申請する人が現れたり、訳が分からず呆れはてた。やはり田中けいとさんの存在は神のように偉大だった。けいとさんのような出来女がいたらどんなに楽だっただろう。

なんだかんだで合宿を迎えるわけだが、実際 3 泊 4 日は長いと思っていた。だって韓国ですよ？ 2 泊 3 日で十分でしょとかなんとか考えているうちにソウルに着いてしまった。科ソウルに着いてからは特に問題がなく普通に楽しかった。(楽しさはみんなのレポートを参照)

行く前は不安しかなかったけど、問題なくゼミ合宿を終えたゼミ友のみなさんお疲れ様でした。これからもがんばっていきましょう！

そして 4 日間を通して通訳を務めてくださったパク・ジョン先輩、篠原先輩、もちろん鈴木先生には感謝の気持ちでいっぱいです。もちろん各訪問先の方々、朝鮮日報のおもてなしおにいさんなどにも感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました！

いろいろあったゼミ合宿ですが(恋の成就とか)、合宿係をやって良かったと思いました。ただ、、、もうやりたくないです!!! 笑

A1219315

田中 雅久